

## 第3回 中富良野町景観計画策定委員会 議事録 要約版

◎日 時 令和4年3月29日（火） 午後6時00分～午後7時45分  
◎場 所 中富良野町役場  
◎出席者 策定委員会：大矢委員、細川委員、内田委員、長谷川委員、本間委員、荒木委員、安井委員、  
畠尾委員、遠國委員  
※ 欠席菅委員  
オブザーバー：中富良野町建設水道課 高橋課長補佐  
事務局：中富良野町企画課 酒井課長、松本係長、筒井係長  
コンサルタント会社：㈱KITABA 酒本、窪田、百瀬、松浦

### 1. 開会

### 2. 委員長挨拶

### 3. 議事

#### ■森林の現状（丘陵景観エリア）

##### 委員長

- ・ 今日具体的に地図を使って、エリアごとに現状や課題、景観づくりのイメージについて、意見をいただきたい。

##### 事務局

- ・ 第2回策定委員会では、市街地エリアについては現状と課題についてのご意見をいただいた。本日はその他のエリアについてご意見をいただきたい。
- ・ 丘陵景観エリアでは共通の課題として、ごみ・埋立地の管理、自然保護があり、リゾート地区では屋外広告物の設置位置、形、意匠、視点場づくり、今後の開発等が考えられる。
- ・ 課題だけではなく、ここが大事な場所だから残したいといった景観資源について、地元の方ならではの視点でご意見をいただきたい。

##### 委員長

- ・ 基本的な質問だが、丘陵地帯の森林は人工林が多いのか。

##### 事務局

- ・ 森林の大部分が民有林と聞いている。産業のために作られた森林である。

#### 委員

- ・ 樹種は針葉樹が多い。

#### 委員

- ・ 本幸地区の森林は近年伐期を迎えており、伐採が進んでいる。
- ・ 本幸地区では昔は防風林としてポプラを植えていたが、伐採されている。かつてはどの区画でもポプラ並木が見られたが、今は見られないことが残念である。
- ・ 木を切ったところに積極的に植林してもらえれば良いが、あくまでも土地を持っている人の考え方があるため、あまり植林が進んでいるように見えない。

#### 委員

- ・ 木を切ったら植林するというのが当たり前ではないのか。

#### 委員

- ・ 木を植えない人もいる。植林しても1年目はネズミにやられてしまい、半分は無くなってしまうことがある。3年くらい経ち、雑木として生えてくるのを待っている人が多い。
- ・ 土地をトラクターで整備する時に木が邪魔になってしまうため、木を切り、ショベルカーで根から抜いてしまう人もいる。
- ・ 現在、山の所有者の高齢化が進んでおり、所有者の親族などは木を切るにしてもどうしたら良いかわからない人も多く、業者に依頼して伐採してもらう場合もある。

#### 委員

- ・ 委員の言ったことは重要で、正式なルートで木材を売買し植林すれば補助金を貰えるが、対価を求めて個人的な業者に売ると補助金には繋がらない。伐採後、植林しない人もいるため、景観に大きな影響が出てしまう。山を守ることは景観計画上も注意して考えなければならない。
- ・ 植林する際に、国と道と町の補助金を使えば、実際はそれほど負担にはならない。そこを理解すれば植林も進み、山の景観の保全に繋がるのではないのか。

#### 委員

- ・ 山の所有者がわからない箇所も結構ある。
- ・ 中富良野町周辺以外の業者が山に入って林道を勝手に作り、そこに大雨が降って林道が流されてしまったという事例もあった。

#### 委員

- ・ 海外の投資家が日本人の仲介人を入れて、いつの間にか山を購入するという考えられるので、山を守るために景観計画の中に対策のための文言を入れても良い。
- ・ きちんとした業者は適正な作業道路を作って木を運ぶが、そうではない業者が作った作業道路は大雨が降るとそこに大量に水が流れて崩れてしまう。そういう心配も出てくる。

#### 委員

- ・ 伐採適齢期がきているのに切らずに残しておくのは対応としておかしいと思う。
- ・ 皆伐は儲かるため、木を切る業者は誰でもやるが、間伐はめんどうだから森林組合に頼むというパターンが多い。一度切ったら5年以内に苗木を植えるという努力目標があり、それに則って植林しているが、外からきた業者はそのような考慮無しに自由に伐採しているイメージがある。

#### 委員

- ・ 森林組合がそうした事情に対し指導に入るのは難しいと思われる。昔は孫のために植林して木を残してきたが、今はそういうこともほとんどないのではないか。

#### 事務局

- ・ 外から来て木を切ってしまうという業者の伐採規模はどれくらいか。

#### 委員

- ・ 山一つ分切ってしまう。本幸小学校の周辺は20～30町単位で木を切っている。

#### 事務局

- ・ きちんとしたルールに従って取り組めば更新されるが、そこに抜け穴があるということか。景観計画や条例でどこまで働きかけられるか調べてみる。

#### 委員

- ・ 戦後、木を植えてから50年スパンで切るのが一般的で、今、どこの山も伐期がきている。そのため、一斉に切り始めている状況である。

### ■河川の現状（丘陵景観エリア・盆地田園景観エリア）

#### 委員長

- ・ 中富良野町では大きな水害は今まであったのか。

#### 委員

- ・ 8号沢や9号沢は麓郷方面に繋がっており、草地開発により上流の畑から流される水が全部8号沢に流れ込んでいるため、大雨が降ると土砂が流れ、問題になっている。
- ・ 水害対策のため、道営の事業が入る予定となっていて、川の拡張が予定されている。
- ・ 8号沢など上流の水は全てベベルイ川に流れてくるため、土砂が溜まってしまう。何年か前からベベルイ川の土砂上げをしているが、長雨が降ったら氾濫してしまう可能性が高い。

## ■農業の現状（丘陵景観エリア・盆地田園景観エリア）

### 委員

- ・ 後継者がいない農家が40戸ほどあると農業委員会で把握している。
- ・ 旭中地区では40年前は5町だった農地が今は平均14町、中には50町を超えている農地がある。現状ではまだ規模拡大して農地を保有しているが、離農した方の土地を買うのにも限界がきている。
- ・ 新規産業として無農薬の業者が入ってくる場合、草が飛んだり、虫が発生したり、様々な弊害が出てきてしまう。
- ・ 本幸には馬鈴薯の種子を作っている業者が結構いるが、その2キロ圏内に無農薬農家を入れると種子を買ってもらえなくなってしまうため、それを防ぐためにもできるだけ地元で農地を売買するように工夫している。
- ・ 上富良野町では地元での農地の売買が難しくなり、40～50町の規模の無農薬の農家がいる。
- ・ 無農薬でやりたい人を止めることもできないため、既存の農家と新規の農家との関係も問題になっている。
- ・ 昔とは違い、農作物は自分たちも食べるため、安全な農薬を使っている。
- ・ 耕作放棄がないわけではないが、中富良野町は富良野沿線の中では一番少ないと認識している。

### 事務局

- ・ 森林と農業の施策は密接に関わる。背景として現状を知っておくことが大切である。

## ■夜の景観について

### 委員長

- ・ 「星に手の届く丘キャンプ場」の周辺は、夜はかなり暗いのか。星がきれいに見える暗さは貴重。
- ・ 東京出身なので、北海道で見る星の美しさには感動する。胆振東部地震の際、停電で街が暗くなった時の星の美しさの印象が強く残っている。今は日本中どこでも明るいため、普段から星が綺麗に見えるところは貴重だ。

### 委員

- ・ 周りに人家がないため、真っ暗である。

### 委員

- ・ 中富良野は市街地以外は基本的に街灯が少ない。

### 事務局

- ・ 電灯をむやみにつけないで、星が見える景観を守りたいという話はワークショップでも話題になっていた。景観計画の中でこの特長をうたうと、中富良野の良さを伝えられるのではないかと。

### 委員長

- ・ 光の景観として、前回の策定委員会でも市街地の街灯が美しいという意見が出ていた。

- ・ 街灯に使う光色が電球色か白色かで街全体の雰囲気が変わってくる。
- ・ 冬期、雪で覆われて地面が白い中で、光は景観を考える上で非常に重要な意味をもってくる。
- ・ 旭川では街灯の色温度の幅を検討し、低め（暖色系）に設定した。光色を慎重に選ぶことにより、まちな通りの雰囲気が変わってくる。

#### 委員

- ・ 市街地の電灯は古くて色温度が低いが、最近ついた LED 電灯は白色である。

### ■リゾートエリアについて

#### 委員

- ・ 丘陵エリアの中にリゾートエリアと書いてあるが、そこはリゾートであるという認識を皆さんは持っているのか。

#### 委員

- ・ ペンションや「ホテルオリカ」周辺に関して違和感はないが、どの範囲までをリゾートと言って違和感がないかはわからない。
- ・ ペンションの周辺は雰囲気が良いと感じる。

#### 事務局

- ・ 丘陵の部分と観光施設がある部分では課題も変わってくると思うが、どうか。

#### 委員

- ・ 「ホテルオリカ」の近くに住んでいるが、その周辺はペンションもあって移住者が多い。ここ 10 年くらいで地区の半分以上が移住者になっている。
- ・ 丘の上からの景観を見て家を建てたいと移ってきた人が多く、道内ではなく、ほぼ本州からの移住者が占めている。
- ・ 目指す景観も地元の人のためなのか、観光客のためなのか、移住者のためなのか、誰のための景観か目的をはっきりさせた方が、明確にプランを立てやすいのではないかと。エリアごとに考えるという方法も考えられる。

#### 委員

- ・ 移住者は区会に入っているか。

#### 委員

- ・ 自分勝手なことをする人を入れないわけではないが、移住者には区会への参加を条件にしている。初期の移住者の方が積極的に入ってくれた。

#### 委員

- ・ 最近では町内会から抜ける人が結構いる。区会に入る人に、あらかじめ地域の決まりを説明しないため、

マナーやルールが守られないことがある。移住された方に地域のルールや仕組みは教えるべきである。

#### 委員

- ・ 現在では逆転現象がおこり、移住者の文化に影響を受けて、地域のルールがだんだん変わってきている。中富良野では昔からこうだったということが通用しなくなってきている。

#### 委員

- ・ 町内会は以前は葬式の対応が多かったが、現在は業者に外注できてしまう。

#### 委員

- ・ 移住者で区会を抜ける人はいない。地元の人が抜けていくパターンがある。
- ・ 良くも悪くも変わってきたように感じる。町内会費が高いということがあり、都会だとあまり取られないのに、こんなに取られるのかという話も聞く。
- ・ 町内会費は円滑に区会活動をするために必要な経費だったが、その必要性が問われたり、経費節減の意見などもあり、活動自体、縮小している感じがある。

#### 事務局

- ・ 外から見て、その周辺は観光エリアかと思っていたが、日常的な暮らしを送っている良さがあるという意見が多く、景観的には意識が高い印象を持った。

#### 委員

- ・ 西中地区の移住者の多くは営みを楽しむために入ってきているため、金持ちがペンションを立ててリゾートにするという印象ではない。

#### 委員

- ・ 農家は草刈りをして周辺を綺麗に保つことが良いと思っているが、移住者は草が生い茂っていたり、古民家が好きだったり、ボロボロの納屋を見て素敵だと言ったり、少しギャップがある。

#### 委員

- ・ 北星山の上の方には以前は遊具などがあり良かったが、古くなって解体してしまった。

#### 委員

- ・ 昔は児童館や保養所があった。

### ■規制について

#### 委員

- ・ 富良野市の景観条例を見てみたが、可能な範囲で実施しようという程度で、それほど規制が厳しい印象ではなかった。中富良野ではどこまでできるか。全て統一した方が見栄えは良いかもしれないが、

反対に、中富良野の良さが損なわれるのではないかと懸念している。

#### 委員長

- ・ 旭川駅周辺に「北彩都あさひかわ」という元の鉄道用地を新都心として開発した地区がある。開発にあたり、8.6haの対象地を景観計画重点区域に指定し、一部地区の建物の外壁にレンガを使うなど、ルールを設けてまちの個性を出そうとした。
- ・ 新しく土地を造成する場合は、買う側は規制がかかっていることを前提に土地を購入するため、ルールを受け入れやすいが、既に住んでいる人がいる場合などは、強い規制をかけることが一般的には難しい。
- ・ そのため、町域全体を景観区域にする場合、景観計画は一般的に規制の程度が緩くなる傾向がある。

#### 委員

- ・ 重点エリアみたいなものはこの町には必要ないということになるのか。

#### 委員長

- ・ 傾向としてあるだけの話なので、できないという話ではない。

#### 委員

- ・ 景観計画をつくる際、既存の住民がいる場合、そこが生活圏であるということを第一に考えなければならぬ。
- ・ 住民の生活と景観をどうやって結びつけてみんなで共有するか、そこが難しい。

#### 委員

- ・ 例えば、ゴミ箱も各町内会で作っているため、デザインがバラバラである。そのあたりの工作物の統一ができるかという点も良いかもしれない。

#### 委員

- ・ 今年、参議院選挙が行われるが、選挙ポスターを規制している町がどこかにあったと思われる。それもひとつの景観対策になるのではないかと。

#### 委員

- ・ 看板を立てるのは良いが、立てた後すぐ片付けないのが問題である。

### ■景観まちづくりの理念について

#### 事務局

- ・ 個別にいろいろ課題はあるが、2年の策定期間内では、ここは多くの人共感できるというところは計画に記載し、細部はその地区に暮らす方にとって望ましい景観を考えて実践に繋げていくと良いと考えている。

#### 委員

- ・ 移住人口を増やすための景観条例だと思えば、既存の住民のアレルギーになってしまうかもしれないが、自分たちが住んでいるまちづくりを理念に置きながら、新しく入ってきた人にも共感してもらえるような内容になれば衝突がおきなくて良い。

#### 委員

- ・ 私自身は今の中富良野町の良い景観をこのまま維持できるような計画になると良いと思っている。同時に、外から来た人がどう思うかについても探った方が良いかもしれない。

### ■高規格道路周辺の規制について

#### 事務局

- ・ 高規格道路の位置やインターの位置は既に確定しており、十勝岳の災害の影響を受けにくい道路にする計画が進んでいる。

#### 委員

- ・ 景観的には北星山の後ろ側になるので、あまり影響が出ないかも。

#### 委員長

- ・ 基本的には高架になるのか。

#### 事務局

- ・ 場所によって変わるが、盛り土の箇所が多い。

#### 委員

- ・ 高規格道路周辺も良い場所であるので、道路の形をもう少し目立たないものにできないか条例等で規制ができないか。

#### 委員

- ・ 高規格道路は国が所管している。現在はかなり景観に配慮した色合いとなっている。

#### 事務局

- ・ インター近くは便利な場所なので、看板等ができやすい。景観計画の中で規制している事例もある。

#### 委員

- ・ 目立たないと意味がないかもしれないが、看板の色を目立たないものに規制することは考えられる。
- ・ 高規格道路の場所の選定は、用地買収も大きな理由の1つであり、人が住んでいるところは費用がかかるため、コストも考慮して選定される。



#### 事務局

- ・ インターの整備計画では学識経験者も加わって景観の打合せを行い、開発局も景観への配慮をしている。

### ■田園盆地エリアについて

#### 委員長

- ・ 町内に河川が多くあるが、例えば、土手に桜並木があるなど、景観上特徴のある河川はあるか。

#### 事務局

- ・ 桜づつみというところがあり、河川改修に合わせて桜を植えている。小学校まで続いており、歩いて観光する人もいる。
- ・ 整備されてから数年しか経っていないので、まだ木が小さくて花見はできないかもしれない。

#### 委員長

- ・ 旭川市街地には大きな河川が4本流れているが、広い河川敷には野球のグラウンドなどがある。中富良野にそのような川はあるか。

#### 事務局

- ・ 富良野川は一級河川だが、それ以外はほとんど用水路のような河川である。

#### 事務局

- ・ 自然の河川の他に、農地に水を運ぶ水路が多いのが中富良野の景観上の特徴だと思われる。

#### 委員

- ・ 昔はほとんどの農地が水田だった。十勝岳が水鏡に映るような景色だったが、減反政策で水田が減ってしまった。
- ・ 報徳地区では今でも米の種を作っている。転作で玉ねぎやネギ、畑作が終わった後にひまわりを植え、秋には観光客がそれらの写真を撮りにくる。

#### 委員

- ・ 圃場整備が進んでいて、真四角で広く、とても景観が良い。

#### 委員

- ・ 北星山から見下ろすと四季折々の景色が見えてきれいである。ここはこのままだが良い。

#### 委員

- ・ 水田自体は減っているが、水田の横にみどりの畑があったり、ハウスがあったり、山からは変化に富

んだ景色が見える。

#### 委員長

- ・ 水田や畑などのバリエーションがあるのは、良い景観要素になる。

#### 委員

- ・ 北星山の散歩道を整備すると、四季折々の田園風景や十勝岳を見ることができるので、費用もかからず効果的ではないか。
- ・ 森林公園周辺の歩道や草木の整備をしたら良いのではないか。

### ■市街地エリアについて

#### 委員長

- ・ 今日には駅から役場まで歩いてきたが、周辺に公共施設が建ち並び、きちんと整理された街並みが印象的だった。
- ・ 商店街や国道沿いで、閉店してシャッターが降りているところはあるか。

#### 委員

- ・ 全面ではないが、中にはある。

#### 委員

- ・ 市街地では空き家を売らない人が多い。市街地は無理して再開発するより、ゴミ拾いや花植えに力を入れれば、それなりに綺麗に整えられる。

#### 委員

- ・ 上富良野町や美瑛町は中心市街地が国道沿いにはない。中富良野町だけ国道沿いにある。
- ・ 車で走っている人から見ると、良くも悪くも街並みがはっきりと分かる。

#### 委員長

- ・ 市街地の中心を国道が通っているのは中富良野町の特徴である。バイパスができると市街地は素通りされてしまう。

#### 委員

- ・ 中富良野の線路沿いにある農協の倉庫が好き。その反対側にある公営住宅の前から駅や山を見下ろせるところは電線がなくて気持ちが良い。

#### 委員

- ・ 基線とフラワー通り線の上にJRの線路を跨ぐブリッジを架けて、ファーム富田まで繋ぐ構想が以前はあった。

## ■水源の保全、中富良野町のインフラについて

### 委員

- ・ 本幸地区には町の水道の水源地があるため、乱開発にが心配。開発するのではなく、今の状態を保っていく視点も大事である。

### 事務局

- ・ 本幸地区には4つ水源地があり、そこから半径1キロの範囲は水資源保全地域に指定しているが、土地の売買までは制限できない状況である。
- ・ 現在はその土地の所有者の理解を得て水資源を保全している。
- ・ 下水道は市街地周辺のみで整備されている。ファーム富田のラベンダー畑駅から北10号道路付近までの範囲だ。

## ■その他

### 委員

- ・ 資料にある、農薬散布のシーンはどういう意図で書いたのか。

### 事務局

- ・ ワークショップ参加者で、喘息を持っている方の意見である。

### 委員

- ・ イメージはよくないかもしれないが、生活のための農業でもあり、農薬散布をなくすのは難しい。

## ■次回の策定委員会について

### 事務局

- ・ 次回はルールについて意見を伺いたい。
- ・ 今あるものを維持していくことが大事だという共通認識があったため、現状を整理し、変わってしまうかもしれないものについての検討ができれば良いと思っている。

### 委員長

- ・ 中富良野のまちの景観資源や課題が見えてきた。次回以降、実際の場所に立って景観を見てみたい。
- ・ どのような計画に落とし込むかは、いろいろと検討が必要だが、今の良い景観を阻害するような事態が起きないように、歯止めをかけるのが基本スタンスとなる。
- ・ 従来から住んでいる人にも外から来る人にも強いインパクトがある町になることを期待したい。

## 4. その他

### 事務局

- ・ 第2回議事録は送ったが、第1回議事録を委員にお配りしていなかった。今回の議事録も事前に見て

いただき、指摘がなければホームページで公開したい。

- ・ 令和4年度は5月に町民ワークショップを企画している。委員にも合わせてお知らせする。

## 5. 閉会